

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 北海道斜里高等学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫<sup>※注1</sup>

☐ 中学校 ☐ 中高一貫<sup>※注2</sup> ☒ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒099-4116

北海道斜里郡斜里町文光町5番地1

E-mail shari-z2@hokkaido-c.ed.jp

Website http://www.shari.hokkaido-c.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 91 名 女子 67 名 合計 158 名

幼児・児童・生徒の年齢 16 歳～ 18 歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「『世界自然遺産・知床』等、地域をフィールドとしたESD活動の改善・充実、及び学校の教育活動全体へのESDの波及～観光教育による、地域に誇りを持ち、地域の持続発展に貢献できる人材の育成～」を活動テーマとして、ESDの実践を通して、全教科・科目、特別活動、課外活動等へつなげ、地域の魅力等への気付きや、地域に誇りを持って情報発信する気概、自ら考え、学び、伝え、行動する積極性や表現する能力の育成を目標とした。

具体的には、環境教育、観光教育、キャリア教育を柱に、① 知床の自然理解に係わる活動、② 高大連携（札幌国際大学観光学部）による観光に係わる学習、③ 「産業社会と人間」・「異年次混合ゼミ」（総合的な学習の時間）による進路、課題解決能力身につけることに係る学習を行った。

①知床の自然理解に係わる活動

(1) 史跡巡検学習

1 年次生全員を対象に、郷土の歴史や豊かな自然に触れさせ、次世代の担い手としての歴史観や自然観を養う。博物館職員による事前講義を受け、発掘調査現場（チャシコツ岬上遺跡）において、オホーツク文化期の遺構や出土した

土器・石器等を実際に見学する。

## (2) 知床自然体験学習

1 年次生全員を対象に、環境保全の意識を高め、畏敬の対象として自然を実感し、野外でのルールを遵守する態度を育成する。事前知識等の講義を実施し知床横断道路付近のポンポロ沼周辺の散策や、サケ・マス孵化場での遡上観察を行う。

## (3) 知床自然概論

3 年次自由選択科目（学校設定科目 2 単位）で、世界自然遺産・知床の生物、地質、生態系などの学習活動を行う。外部講師による授業は、斜里町立知床博物館、東京農大、知床ネイチャーオフィス、林野庁北海道森林局知床森林生態系保全センターなどから年間 3 6 時間程度行われる。

## ② 高大連携（札幌国際大学観光学部）による観光に係わる学習

連携プロジェクトとして、「デジタル観光パンフレット」に取り組み、夏季休業を利用し、知床を訪れた外国人に知床の魅力についてインタビューし、英語による説明文と音声をつけ加え、web 上に公開している。観光英語の授業では facetime を利用した e ラーニングによる語学学習も行っている。

## ③ 「産業社会と人間」・「異年次混合ゼミ」（総合的な学習の時間）による進路、課題解決能力身につけることに係る学習

### (1) カタリ場（NPO 法人による動機付けキャリア学習プログラム）

進路の悩みについて、少人数の班になり大学生が対話型のワークショップを実施しながら、自分の将来を考えるヒントを得る取り組み。1 年次生産業社会と人間の授業で実施。

### (2) 異年次混合ゼミ

科目横断的・探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び考え、主体的に判断し、課題を解決する資質や能力を身につける。今年度は、歴史文化・英語劇・スキルアップ・合唱・創作・数学・保育の各ゼミを展開。



① 知床自然概論



① 知床自然体験学習



② 高大連携プロジェクト



③ カタリ場

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合学科必修科目「産業社会と人間」・知床・産業系列の学校設定科目「知床自然概論」・同系列の観光系科目・地歴公民科の取組として「史跡巡検学習」・理科の取組として「知床自然体験学習」を行っている。

E S Dに係る評価の観点として、E S Dの視点での学習指導を明確にすることにしている。「批判的に考える力・未来像を予測して計画を立てる力・多面的、総合的に考える力・コミュニケーションを行う力・他者と協力する態度・つながりを尊重する態度・進んで参加する態度」のどれに重点をおいた授業にするのかを冒頭に生徒に伝えることにより効果をあげる工夫改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ユネスコスクール活動推進委員会（教頭・教務主任・進路指導主事・理科主任・地歴公民科主任・推進委員）を中心に取組を行っている。月例の校務運営会議において、活動計画の確認や実施要領の内容のチェックを行っている。最終的に職員会議での提案承認を経て、全職員での共通理解のもと活動を進めている。管理職である教頭から、活動の進捗状況などの確認も随時行われている。シラバスや学習指導案等にも何を意識したE S D活動なのかを明記するように取り組んでいる。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒・保護者・道立学校 学校評議員（外部有識者）による、学校評価アンケートを行っている。「ユネスコスクール加盟校として、地域の素材を活かした学習活動を展開している。」という問いに対しては、約８０％が概ね良好だと回答している。「授業に積極的に参加しているか。」という問いに対しては、約９０％の生徒が参加と回答している。本校の取り組みに対し、一定の理解をいただいているが、割合を増やすためにいかに更なる情報発信・授業改善をしていくかが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

月1回のペースで学校だよりを作成し、斜里町広報誌に全戸折り込みで町民に情報発信している。HPの内容も随時更新が行われ、アクセス数も高くなっている。2月には、学習成果発表会を町のホールで行い、町民、保護者、斜里中学校2年生全員に成果を発表し、町民、保護者等から非常に高い評価を得た。本校の取り組みを、中学生に知ってもらうことにより、本校で学んでみたいという感想をもらうことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

環境教育では、講師やガイドを斜里町立博物館、林野庁北海道森林局知床森林生態系保全センター、知床ネイチャーオフィス、東京農業大学オホーツクキャンパス等、観光教育では、「高大・地域連携協定」を締結しており、札幌国際大学観光学部、斜里町役場商工観光課、斜里町商工会、知床斜里観光協会等と連携し教育活動をすすめている。NPO法人(いきたす)によるカタリ場(動機付けキャリア学習プログラム)も行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

諸事情で、今年度は、他のユネスコスクールとの交流をすることができなかったが、新たに加盟した斜里町立朝日小学校や、近隣の北海道清里高等学校・北海道羅臼高等学校などと交流し、お互いの取組のいいところを学び合い、学校教育活動に還元していきたい。予算の都合がつけば、先進的な取組をしている学校を視察訪問し、本校の取り組みに活かしていきたいと考えており、来年度に向けて検討中である。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

本校のユネスコスクールとしてのESD活動の情報発信してきたことにより、地域とのかかわり（町在住の方から、首都圏から斜里を訪問した人々が「自然や食べ物が素晴らしい。」と言っているので、高校から斜里の良さを何か発信できないかと提案を受けた）が深くなっていることを実感した。

授業においては、1枚ポートフォリオを導入することにより、世界自然遺産・知床についての基本的知識や課題を着実に定着させることができ、理解度の「見える化」（可視化）につなげることができた。

- （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 学校経営シラバスへのESD活動推進の明記
- ・ ユネスコ活動推進委員会による、研究推進・評価（検証）方法等の検討
- ・ 各教科・科目におけるシラバスの作成
- ・ 校内研修会の実施（実践の方向性等の明確化）
- ・ 「目指す生徒像」「身につけて欲しい資質能力」の全職員での共通理解を図る。
- ・ ESDに係わる公開授業、研究授業、合評会等の実施
- ・ 3年次学校設定科目「知床自然概論」（4～1月）、異年次混合ゼミ（4～1月）、高大連携プロジェクト（7～8月）、進路学習カタリ場（8月）、知床自然体験学習（10月）、史跡巡検学習（11月）、学習成果発表会（2月）